



国立大学法人 名古屋大学 ●名古屋市千種区

超省エネルギーの蓄熱システム採用で、低炭素エコキャンパスを目指す

〔贈呈理由〕「井水熱+ヒートポンプ+蓄熱槽」を活用した省エネルギーシステムの導入



名古屋大学総合研究棟

名古屋大学は、その起源を1871(明治4)年に尾張藩仮医学校として開校したことに発している。1939(昭和14)年に名古屋帝国大学として設立され、一昨年、創基140周年の節目を迎えた。大学には東山・鶴舞・大幸の3つの主要キャンパスがあり、

人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて人々の幸福に貢献することをその使命としている。

低炭素エコキャンパスを目指す「キャンパスマスタープラン2010」を発表、その中でCO₂削減について「2005年比で、2014年までにCO₂排出量を20%以上削減」の目標を掲げ、全学でそれに向けて取り組んでいる。

昨年は省エネ大賞「省エネルギーセンター会長賞」やヒートポンプ・蓄熱シンポジウム「最優秀賞」などさまざまな賞を受賞、またエコ大学ランキングで総合第1位に輝いたことは記憶に新しい。

研究施設などを有する総合研究棟(地域環境系)の新設にあたり、空調機は井水熱でヒートポンプを高効率で運転し、

割安な夜間電力を利用する蓄熱槽も導入した。また全館LEDの採用のほか、竣工後もコミショニングによるチューニングも行われる超省エネルギー建物である。

ヒートポンプ・蓄熱システムによって快適な環境の下に学ぶ学生・研究生たちが、今後も地球環境問題に取り組み、蓄熱システムを広く普及させることを大いに期待している。

国立大学法人名古屋大学 総合研究棟(地域環境系)

所在地:名古屋千種区不老町
 建築設計:㈱日建設計
 建築施工:㈱鴻池組
 蓄熱設備設計:㈱森村設計
 蓄熱設備施工:日比谷総合設備㈱
 延床面積:7,046㎡
 竣工:2013年(新設)

●蓄熱設備概要

水蓄熱式空調システム 熱源機:冷温同時ヒートポンプ 354kW×1台(神戸製鋼所) 蓄熱槽:125㎡×2基(冷温水槽)